

2025年度 第1回入試（社会） 解説・出題の狙い

解説中の【A】【B】【C】【D】は、正答率及び得点率を表しています。【A】は76%以上、【B】は75～51%、【C】は50～26%、【D】は25%以下となります。参考にしてください。

1

- 問1【B】漢字を正確に書きましょう。また、古墳時代の埴輪と縄文時代の土偶を間違えないようにしましょう。
- 問2【C】古代の遺跡はたくさんありますが、どの時代の遺跡なのか、場所はどこなのかを合わせて覚えるようにしましょう。また、遺跡の場所に限らず出来事が起きた場所を、地図で確認すると理解が深まります。
- 問3【A】歴史を勉強するときによくの政策が出てきます。その時、当時の権力者が誰で、どのような課題を抱えていたのかを関連付けると歴史への理解が深まります。
- 問4【B】正しいものを選ぶ問題では、どのようなパターンで誤っている文が作られているかを意識すると良いです。今回の問題の場合（ア）では戦いの名称が誤っており、本当は平治の乱。（イ）では役職名が誤っており、平清盛は征夷大將軍にはなっていません。鎌倉幕府と混同しないようにしましょう。（エ）では用語が誤っており、本当は荘園です。
- 問5【C】江戸の三大改革の順番が分かっていたら解きやすい問題でした。（イ）は享保の改革、（ア）は寛政の改革です。その後、天保の飢饉の中で（エ）大塩平八郎の乱が起き、天保の改革が行われますが失敗。そして（ウ）幕末を迎え、江戸幕府は終わっていきます。
- 問6【A】基本問題。現在も火山活動が活発な、鹿児島県にある地図中Dの島は桜島です。
- 問7【C】オリンピックで新競技が採用される背景には、オリンピックへの若者の関心が薄れていることがあります。また大会の簡素化を図る観点から、できるだけ経費が削減できる競技が採用されるなどの解答でも正解です。
- 問8【A】鳴滝塾を手掛かりにシーボルトと答えましょう。
- 問9【B】比較対象である1920年の約307万人と、1928年の約1241万人では、有権者の数が約4倍に増えています。しかし、本文読んでも人口が4倍に増えているわけではありません。そう考えると、有権者になることのできる条件が緩和されたと考えられそうです。また、普通選挙法の成立により有権者が4倍に増えたということを知っていれば、そこから解くこともできるはずです。
- 問10
- (1)【C】記述問題では設問を丁寧に分析する必要があります。今回の問題では「日本列島の人口」があえて強調されていることに気が付きます。その上で、資料を読んでいくと、一つ目に、日本の領土が制限されたことが書かれています。戦前の日本は植民地を持っていましたが、ポツダム宣言によって制限されました。そして、そこに住んでいた人々が日本に戻り「日本列島の人口」が増加したと考えられます。また、資料の二つ目の文では、兵士に対して家庭に帰ることを促しています。ポツダム宣言の受諾によって戦争が終わったと考えると、その時まで日本の外で戦っていた兵士が日本に戻れば「日本列島の人口」は増加します。これ以外に、兵士が家庭に帰り、子どもが増えていったことを指摘しても良いです。

- (2) 【A】戦後の日本の人口ピラミッドの形は、いわゆる「ピラミッド（富士山）型」から「釣り鐘型」、そして「つぼ型」へと変化しています。それに該当するものを選ぶと（ウ）→（イ）→（ア）となります。
- (3) 【C】時事問題。現在の家族の在り方を想起し、表の割合の変化を読み取り、「単身世帯」「夫婦のみの世帯」「親と子どもから成る世帯」について考えてみましょう。表中E～Gのうち、減少傾向にあるのはFのみであり、これに該当するのが「親と子どもから成る世帯」となります。EとGはともに増加傾向にあり、特に著しいのはGで、高齢化の流れの中で「単身世帯」がこれに該当します。残るEが「夫婦のみの世帯」となります。

問 11 【C】高度経済成長期の日本の状況を問う問題です。（イ）当時「三種の神器」と呼ばれたのは、「電気冷蔵庫・電気洗濯機・白黒テレビ」です。（ウ）1971年に設置されたのは「環境庁」であり、「環境省」は2001年の中央省庁再編により誕生しました。（エ）日本が観光立国になることを宣言したのは、21世紀以降。近年は「インバウンド」という言葉もニュースでよく耳にするようになりました。普段から時事問題に関心を持ちましょう。

問 12

- (1) 【C】表中に近畿地方とあることも手掛かりとし、大阪府に次いで人口が多いところを考えると、兵庫県となります。誤答として京都府が多かったです。
- (2) 【B】ぶたの飼養頭数（2023年2月）の1位の都道府県は鹿児島県です。

問 13 【D】第3次産業とは何かということから、考えてみましょう。第1次産業が農林水産業、第2次産業が工業、建設業などで、第3次産業が商業、サービス業、運輸・通信業、金融・保険業、公務などとなります。次に、大都市圏ではない沖縄県や北海道において、なぜこれらの第3次産業が発展しているのか、共通している点を想起していきます。すると「自然の観光資源を活用した観光業がさかんであること」にたどり着くのではないのでしょうか。「自然」と「観光」が結びついた解答は少なかったです。

問 14 【A】生存権は社会権の重要な権利の一つです。とてもよく書けていました。

問 15

- (1) 【A】I国に該当するのはインドで、インドの位置を地図中から選ぶと（ウ）となります。
- (2) 【B】基本問題。日本にとって最大の貿易相手国とは中国です。

問 16

- (1) 【D】時事問題。ニュースで見聞きしたことがあれば、バターと即答できるかもしれませんが、問題文中からも、「菓子やケーキなどに使われる」や「生乳の生産量が減ると、在庫がさらに少なくなる」といったところを手がかりとして答えを導き出してほしいところです。
- (2) 【D】食糧が安定して供給できるように、農業・林業・水産業などを統括するのは農林水産省です。経済産業省や外務省などの誤答が目立ちました。

問 17 【B】SDGsに関する基本問題。Lには、「ノーベル平和賞を受賞した世界食糧計画」「学校給食を提供」「食べ物が足りない地域で食料を確保する」といった説明から、目標2「飢餓をゼロに」が当てはまります。Nには、「女の子が早く結婚させられてしまうことが減り、自分の将来について幅広い進路を選択することができる」「女性がこの活動を通して地域社会で重要な役割を果たす」といった説明から、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が当てはまります。ちなみにOには、直前に「死亡率が低くなる」とあるため、目標3「すべての人に健康と福祉を」が当てはまります。